

島根県  
美郷町



# 美郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略

(美郷町人口ビジョン)

令和3年度(2021)～令和7年度(2025)

# はじめに

国は、人口減少と地域経済の縮小を克服し、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。地方創生は、東京圏への過度な人口集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保していこうとするものです。

島根県は人口減少に打ち勝ち、将来にわたって人口を安定的に推移させるため、令和2年3月に「島根創生計画」を策定し、島根に愛着と誇りをもって幸せに暮らし続けることができる環境づくりを目指しています。

美郷町においては、平成17年の国勢調査で人口減少率が県下ワーストの10.8%となったことを重く受け止め、若者定住住宅の整備や保育料、給食費の軽減や公営塾の開設、定住ポイント等、定住と子育て支援に力を入れた施策を実施してきました。加えて、町の認知度、注目度向上のために積極的に魅力発信を行い、町外との交流を強化するとともに、山くじらやバリ島マス村との交流など美郷町の強みを活かした取り組みを現在も進めています。

また、新型コロナウイルス感染症は、地域の経済や生活に大きな影響を与え、サテライトオフィスやリモートワーク等の働き方を考えるきっかけとなり、地方への移住・定着の新しいひとの流れをつくっています。

国や県の動向を踏まえ、住民代表、産業界、教育機関、金融機関、労働団体等各界のご意見を聞きながら、地域の資源を再評価し、少子高齢化の真っただ中にある地域を、持続可能なものとして美郷町の活力ある未来を創っていくための、美郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しました。

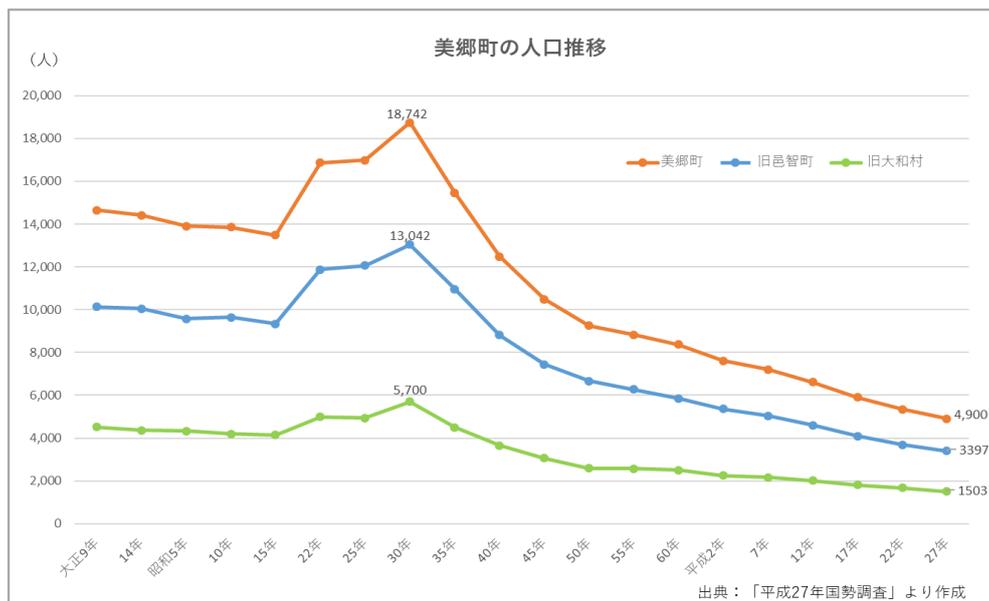
# 目 次

<b>1. 美郷町の人口の現状</b>	1
(1) 人口推移	1
(2) 人口構成	1
(3) 出生数と合計特殊出生率	3
(4) 1世帯あたりの子の人数	3
(5) 未婚率の状況	4
(6) 人口動態の状況	4
(7) 産業構造の推移	6
(8) ベンチマーク自治体との統計指標比較	7
<b>2. 美郷町の将来人口の見通し（人口ビジョン）</b>	14
(1) 将来の人口推計	14
(2) 人口ピラミッドから見た推計	15
(3) 美郷町の人口シミュレーション	16
(4) 人口減少が進んだ場合の問題	17
<b>3. 総合戦略の基本的な考え方</b>	18
<b>4. 戦略の基本目標と施策（令和3～令和7年度）</b>	19
<b>基本目標1 活力ある産業の創出と雇用を促進する</b>	21
(1) 新産業の創出と雇用の促進	21
(2) 農林業の推進	22
(3) 商工業の振興	23
(4) 観光の進行	24
(5) 働きやすい就労環境の充実	25
(6) 産業振興に必要な社会資本整備	26
<b>基本目標2 町内へ定住する人の流れを拡充する</b>	27
(1) 美郷町への移住及び定住の促進	27
(2) 美郷町の魅力を発信する	29
(3) ふるさと教育の推進	30
(4) 関係人口の増加と活動人口の拡大	31
<b>基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる</b>	32
(1) 結婚支援の充実	32
(2) 妊娠・出産・育児までの総合的な支援体制の整備	33
(3) 子育てしやすい学校教育と社会教育環境の充実	34
<b>基本目標4 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに         地域と地域を連携する</b>	35
(1) 地域コミュニティの単位・実情に応じた住民等の活動体制の構築	35
(2) 地域生活交通の確保	36
<b>基本目標5 先進技術を活かした新たな美郷を創造する</b>	37
(1) 空の駅構想の推進	37
(2) 行政のデジタル化の推進	38

## 1. 美郷町の人口の現状

### (1) 人口推移

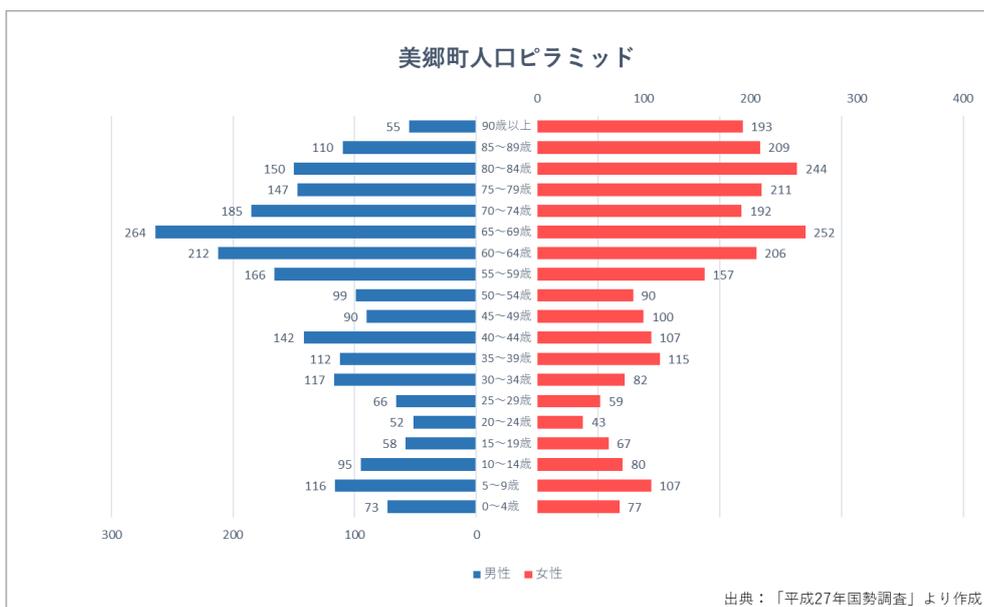
美郷町の人口は、昭和 30 年(1955 年)の 18,742 人をピークに、高度経済成長期における大都市圏等への人口流出などの影響により減少傾向となり、平成 27 年の国勢調査では 5,000 人を下回った。



### (2) 人口構成

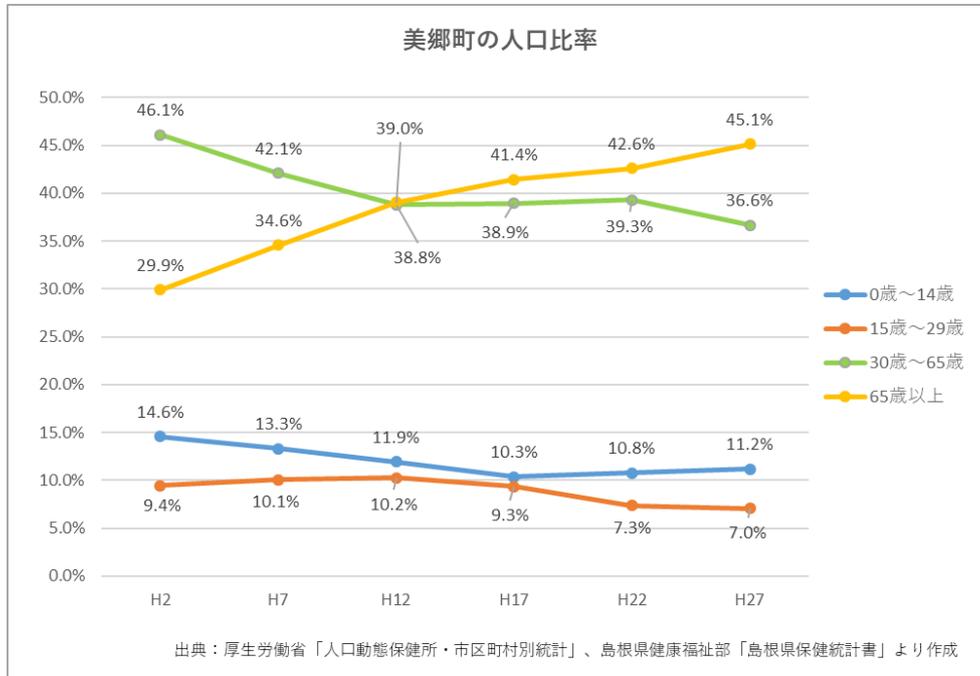
#### ① 人口ピラミッド

平成 27 年(2015 年)人口ピラミッドを見ると、逆ピラミッド型の人口構造となっており、0 歳から 14 歳までの年少人口と 15 歳から 64 歳までの生産年齢人口は、全体の約 55%、65 歳以上の高齢化率は約 45%で少子高齢化が進んでいる。



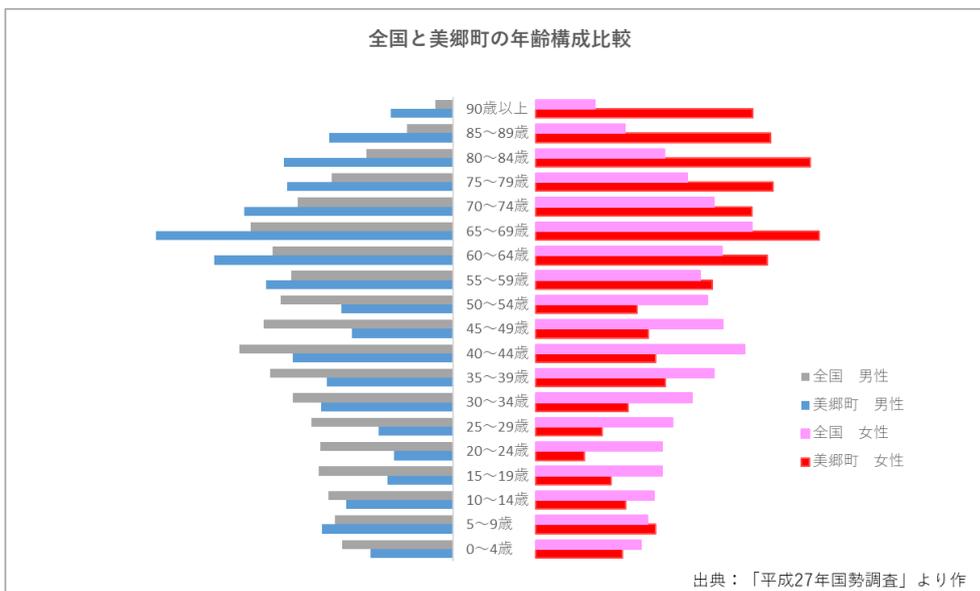
## ② 人口比率

美郷町における人口比率は、国勢調査の結果によると、65歳以上の高齢者率が年々上昇し、一方で14歳以下の年少者と15歳から29歳までの若年者は10%前後にとどまっていることから、少子高齢化に歯止めのかからない状況となっている。



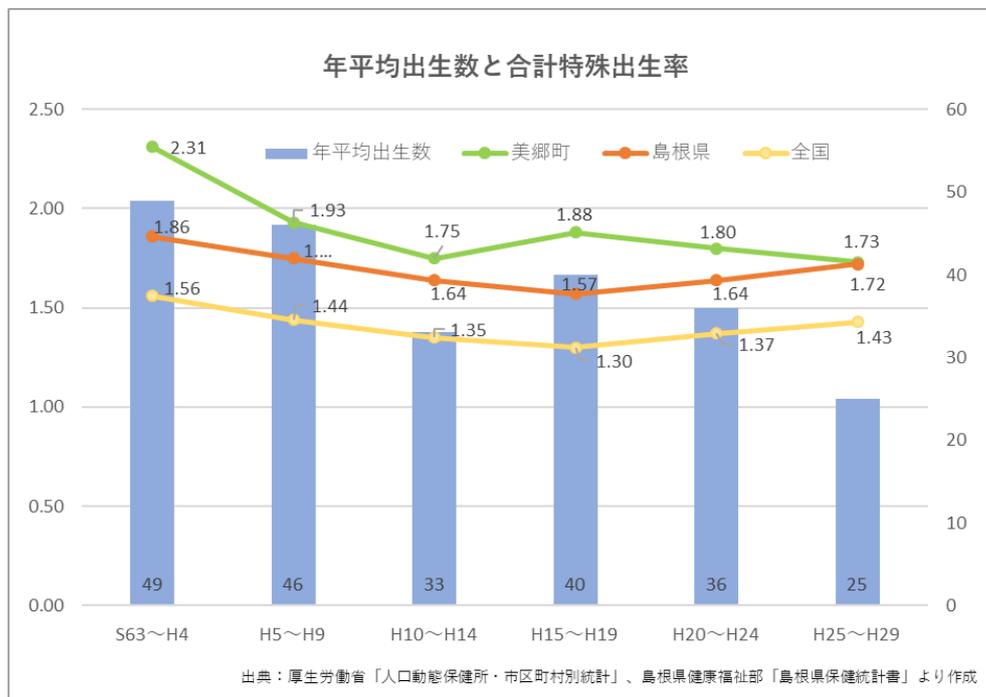
## ③ 人口ピラミッド全国比較

総人口に占める5歳階級別人口を全国と比較すると、全国に比べ美郷町は55歳以上の割合が高くなっている。また、20歳から50歳までの人口に関しては、町内に高等学校以上の教育機関がないことから転出が進み、全国に比べ低くなっている。



### (3) 出生数と合計特殊出生率

美郷町の合計特殊出生率は、国及び県に比べ高い状況で推移しているが、結婚適齢期人口の減少や晩婚化の進行などにより、出生数は年々減少傾向にある。

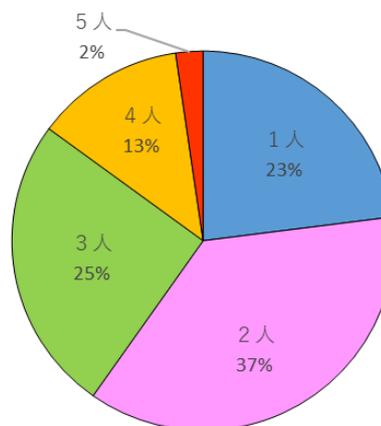


### (4) 1世帯あたりの子の人数

美郷町の保育園在園児の世帯あたりの子の人数は、2人以上の世帯が約8割で、その中でも2人と3人の世帯が約6割を占めている。

1世帯あたりの子の人数

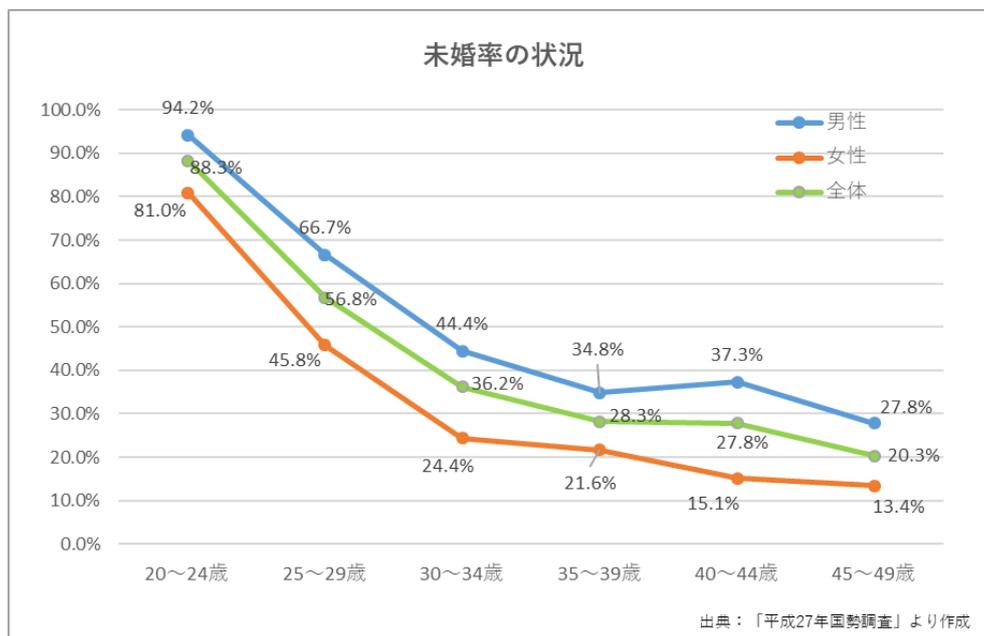
子の数	合計		1世帯あたり平均人数
	世帯	割合	
1人	20	23.0%	2.34人
2人	32	36.8%	
3人	22	25.3%	
4人	11	12.6%	
5人	2	2.3%	
合計	87	100%	



令和2年3月美郷町調査

### (5) 未婚率の状況

美郷町の未婚率(20歳以上50歳未満)は、平成27年国勢調査によると、男性50.2%、女性35.5%、全体では43.3%となっており、特に男性は約半数が未婚の状態にある。



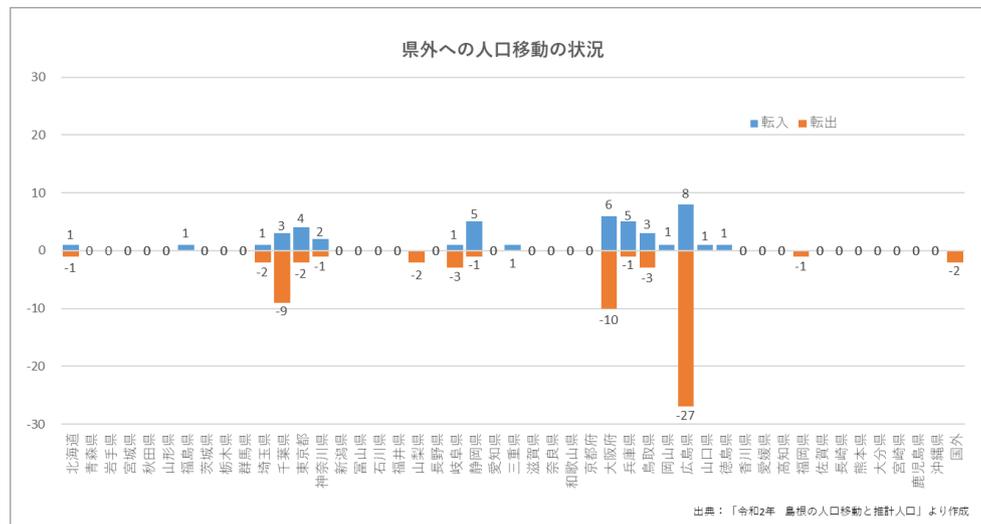
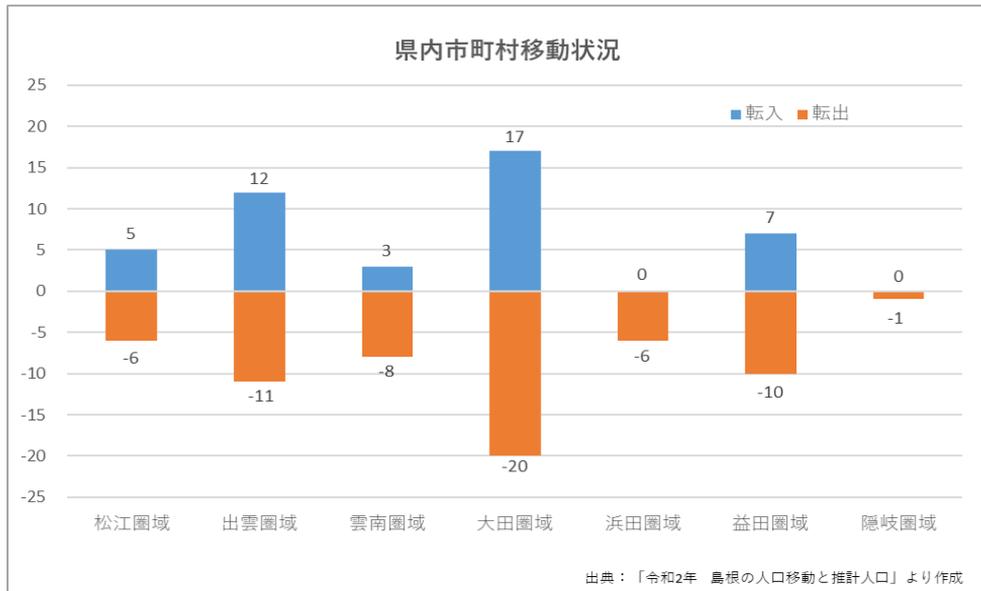
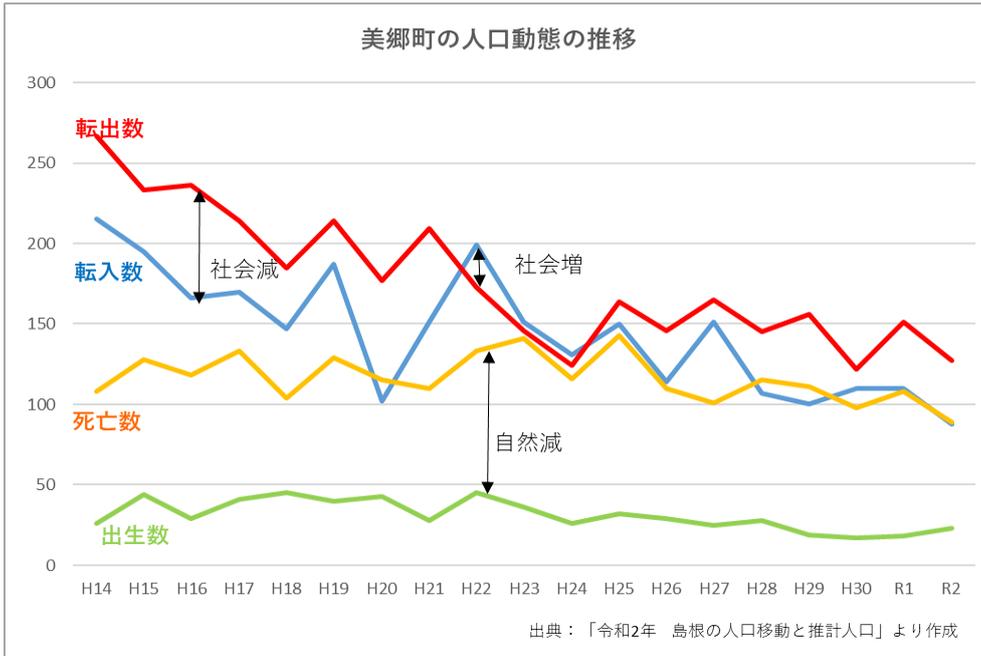
### (6) 人口動態の状況

美郷町における人口動態の状況は、平成22年～平成24年は社会増となっているが、その他は社会減、自然減となっている。

人口移動については、県外への移動のうち約4割が隣県の広島県へ、続いて大阪府の順番となっており、この1府1県で全体の5割を超えている。

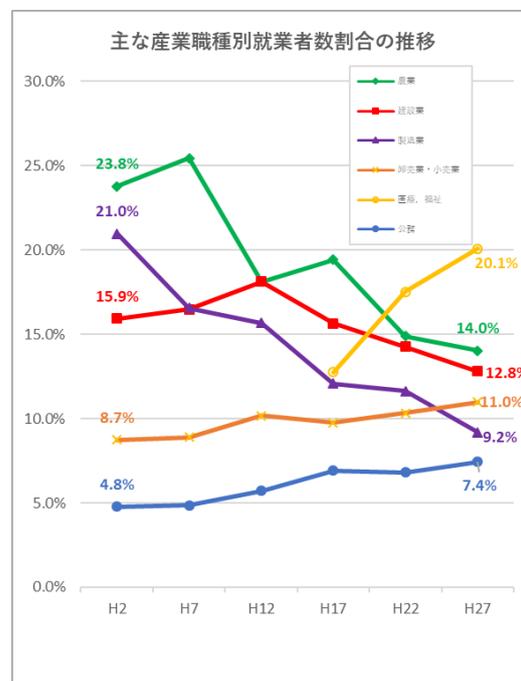
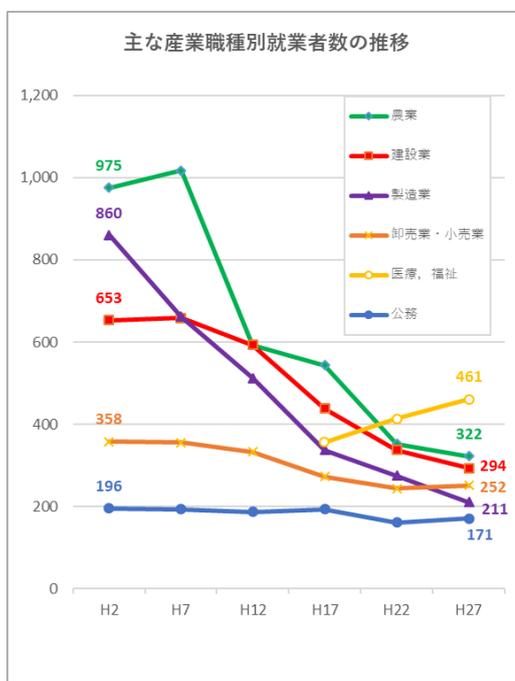
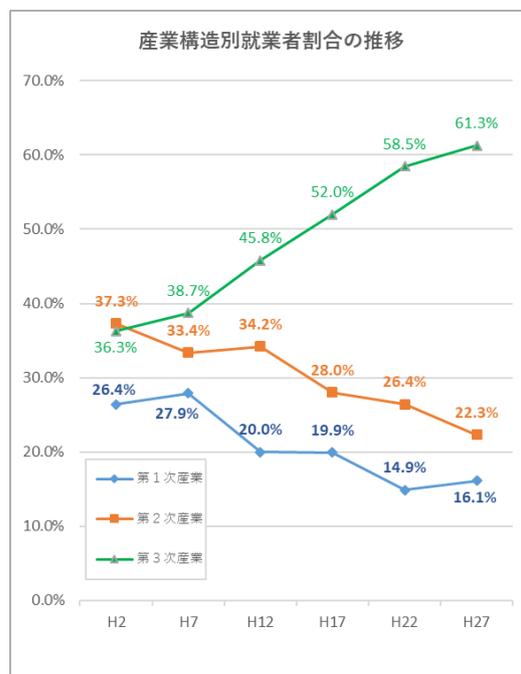
区分	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
転入数	215	195	166	170	147	187	102	151	199
転出数	267	233	236	214	185	214	177	209	173
社会移動	▲52	▲38	▲70	▲44	▲38	▲27	▲75	▲58	26
出生数	26	44	29	41	45	40	43	28	45
死亡数	108	128	118	133	104	129	115	110	133
自然増減	▲82	▲84	▲89	▲92	▲59	▲89	▲72	▲82	▲88

区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
転入数	151	131	150	114	151	107	100	110	110
転出数	146	124	164	146	165	145	156	122	151
社会移動	5	7	▲14	▲32	▲14	▲38	▲56	▲12	▲41
出生数	36	26	32	29	25	28	19	17	18
死亡数	141	116	143	110	101	115	111	98	108
自然増減	▲105	▲90	▲111	▲81	▲76	▲87	▲92	▲81	▲90



## (7) 産業構造の推移

美郷町の産業構造は年々、第1次産業、第2次産業が減少し、第3次産業の割合が増加するという傾向が続いている。また、主な職種別では、農業、建設業、製造業、卸・小売業が減少し、医療・福祉が増加している。



※出典：総務省「平成2年国勢調査」～「平成27年国勢調査」から作成

## (8) ベンチマーク自治体との統計指標比較

ベンチマーク自治体に邑智郡内の 2 町(邑南町、川本町)と大田市を設定し、主要指標について以下の通り比較を行い、比較優位性や課題の検討資料とした。

### ① 人口・世帯・面積

- 年少人口の割合は 11.2%で、全国、県、大田市の数値を下回っているが、邑南町、川本町の数値を上回っている。老年人口は 45.1%で比較団体中最も割合が高い。
- 地目別面積からみる用途では、美郷町は可住地面積率が最も少なく、また、人口密度も比較団体中最も低い。

#### ■人口・世帯・面積

自治体	人口 (人)	年齢3区分人口割合			世帯数 (世帯)	総面積 (km <sup>2</sup> )	可住地面積 (km <sup>2</sup> )	可住地面積率 (%)	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
		年少人口	生産年齢人口	老年人口					
美郷町	4,900	11.2%	43.7%	45.1%	2,010	282.92	32.47	11.5%	17.3
大田市	35,166	11.3%	50.2%	37.9%	13,613	435.71	99.23	22.8%	80.7
邑南町	11,101	10.6%	46.1%	43.1%	4,224	419.29	56.89	13.6%	26.5
川本町	3,442	9.6%	47.0%	43.4%	1,457	106.43	16.56	15.6%	32.3
島根県	694,352	12.4%	54.3%	32.1%	265,008	6,708.27	1,298.89	19.4%	103.5
全国	127,094,745	12.5%	60.0%	26.3%	53,448,685	377,970.75	12,263,537	32.9%	336.3

※年齢3区分人口割合：年少人口＝15歳未満、生産年齢人口＝15歳以上65歳未満、老年人口＝65歳以上

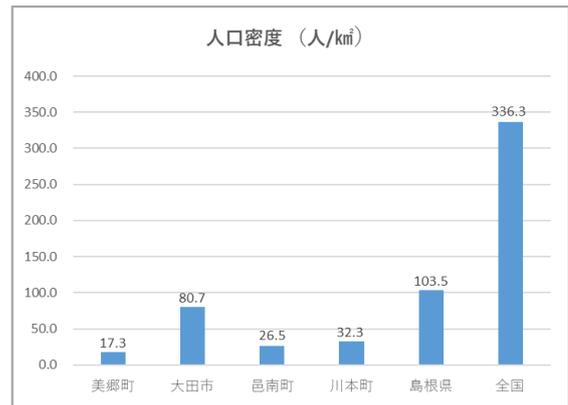
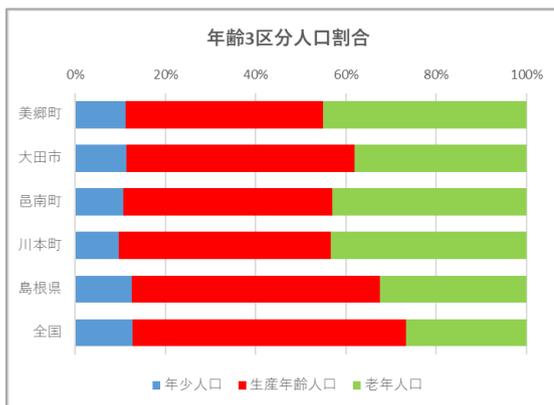
[出典]【島根県内】人口、年齢3区分人口割合、世帯数：総務省「平成27年国勢調査」

総面積、可住地面積：総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた2020」

【全国】人口、年齢3区分人口割合、世帯数：総務省「平成27年国勢調査」

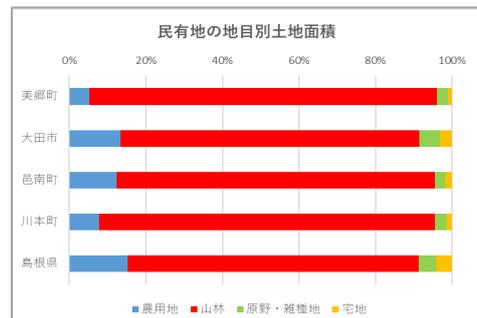
総面積、可住地面積：総務省統計局「統計でみる都道府県のすがた2020」

[指標計算式] 人口割合(%)＝3区分人口/人口総数、人口密度＝人/km<sup>2</sup>



#### ■民有地の面積・地目土地面積 (km<sup>2</sup>)

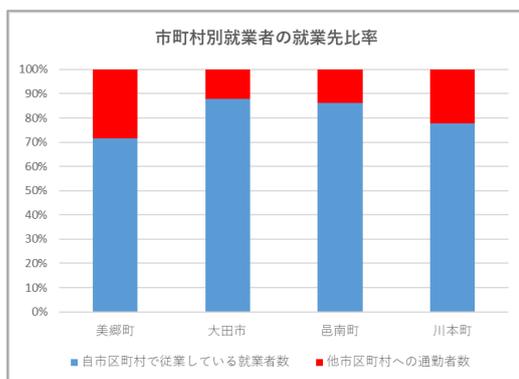
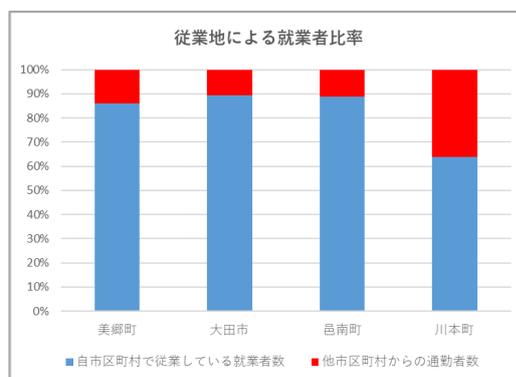
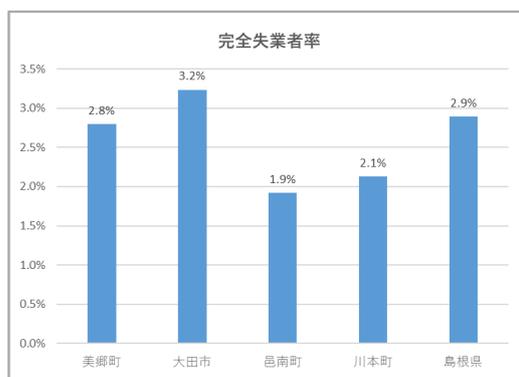
自治体	総面積	農用地	山林	原野・雑種地	宅地
美郷町	161.302	8.491	146.180	4.628	1.704
大田市	277.910	37.169	216.889	15.196	8.657
邑南町	197.350	24.225	164.040	5.475	3.402
川本町	73.807	5.691	64.881	2.183	1.052
島根県	3,357.160	511.611	2,552.370	152.676	138.909



## ② 労働

- 労働力人口は総人口に対して48.2%で、比較団体中最も少ない。
- 美郷町の完全失業率は2.8%で、邑智郡3町の中では最も高いが、大田市、県と比較すると最も低い。
- 就業地、通勤地の状況は、美郷町では自市町村への通勤者比率が71.3%と比較団体中最も低く、他市町村への通勤者、他市町村からの通勤者が多い傾向にある。

自治体	総人口	労働力人口		就業者数	完全失業者数		自市区町村で就業している就業者数		他市区町村への通勤者数		就業地による就業者数	他市区町村からの通勤者数	
		対総人口 (%)	就業者数		完全失業者数 (%)	比率 (%)	比率 (%)	比率 (%)	比率 (%)				
美郷町	4,900	2,362	48.2%	2,296	66	2.8%	1,637	71.3%	648	28.2%	1,916	268	14.0%
大田市	35,166	17,404	49.5%	16,841	563	3.2%	14,435	85.7%	1,973	11.7%	16,579	1,711	10.3%
邑南町	11,101	5,827	52.5%	5,715	112	1.9%	4,919	86.1%	789	13.8%	5,551	625	11.3%
川本町	3,442	1,692	49.2%	1,656	36	2.1%	1,282	77.4%	370	22.3%	2,013	727	36.1%
島根県	694,352	353,201	50.9%	342,994	10,207	2.9%	-	-	-	-	-	-	-



※労働力人口：15歳以上人口のうち就業者と完全失業者の合計

[出典] 総務省「統計でみる市区町村のすがた 2020」

[指標計算式]

- ・完全失業率 = 完全失業者数 / 労働力人口
- ・自市区町村内での就業者比率  
= 自市区町村で就業している就業者数 / 就業者数
- ・他市区町村への通勤者比率  
= 他市区町村への通勤者数 / 就業者数
- ・他市区町村からの就業者数比率  
= 他市区町村からの通勤者数 / 就業地による就業者数

## ③ 事業所数・従業者数

- 事業所数は、第2次産業：約20%、第3次産業：約80%で、比較団体で大きな差はない。
- 労働生産性は島根県、川本町、大田市との比較では低く、邑南町と大きな差はない。

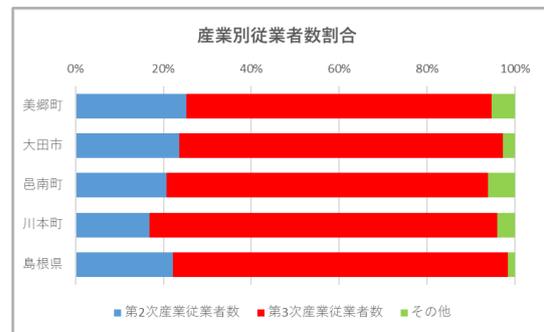
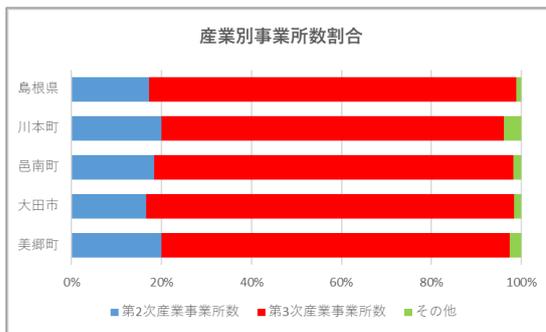
自治体	事業所数	第2次産業事業所数		第3次産業事業所数		その他	
			構成比 (%)		構成比 (%)		構成比 (%)
美郷町	306	61	19.9%	237	77.5%	8	2.6%
大田市	2,055	340	16.5%	1,681	81.8%	34	1.7%
邑南町	273	50	18.3%	218	79.9%	5	1.8%
川本町	701	140	20.0%	534	76.2%	27	3.9%
島根県	37,836	6,529	17.3%	30,859	81.6%	448	1.2%

自治体	従業者数	第2次産業従業者数		第3次産業従業者数		その他	
			構成比 (%)		構成比 (%)		構成比 (%)
美郷町	1,674	423	25.3%	1,162	69.4%	89	5.3%
大田市	15,313	3,615	23.6%	11,291	73.7%	407	2.7%
邑南町	4,860	1,007	20.7%	3,554	73.1%	299	6.2%
川本町	1,844	310	16.8%	1,460	79.2%	74	4.0%
島根県	329,036	72,822	22.1%	251,091	76.3%	5,123	1.6%

自治体	労働生産性	
	(千円)	県内順位
美郷町	2,909	13
大田市	3,262	7
邑南町	2,765	15
川本町	3,356	6
島根県	3,743	-

[出典]

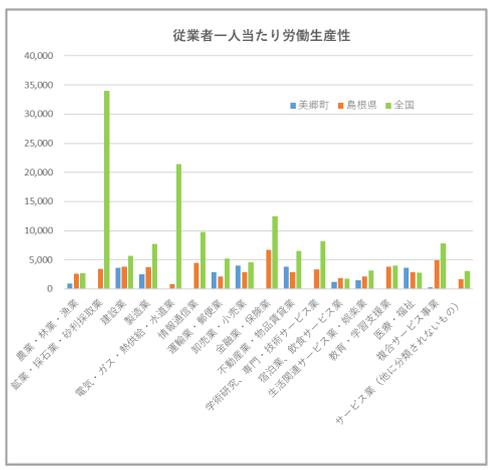
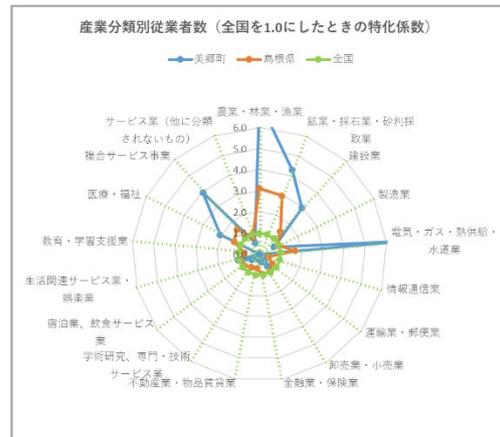
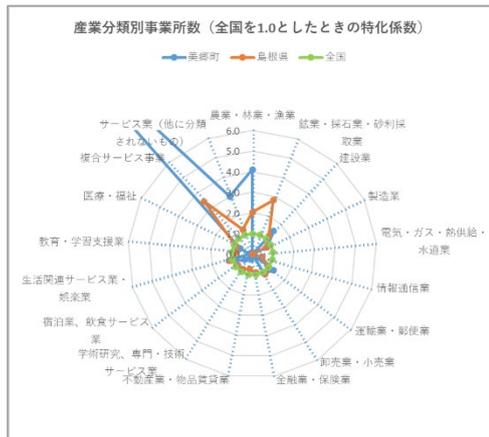
- ・事業所数、従業者数：総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた 2020」
- ・労働生産性：内閣府「RESAS-地域経済分析システム」



#### ④ 産業分類別事業所数・従業者数・労働生産性

- 事業所の産業構成は、全国、県と比較して、第1次産業、第2次産業は、農業・林業・漁業と建設業を除いては低く、第3次産業は複合サービス業が高い傾向にある。
- 従業者の産業構成は、第1次産業、第2次産業は製造業を除いて高い傾向にあり、第3次産業は、医療・福祉、複合サービス業が高い。
- 従業者1人あたりの労働生産性は、全国、県と比較し概ね低水準で、特に鉱業・採

石業・砂利採取業、電気・ガス・熱供給・水道業、複合サービス業の水準差が大きい。



[出典] 内閣府「RESAS-地域経済分析システム」  
 [指標計算式] 労働生産性（千円）  
 = 付加価値額 / 従業者数

### ⑤ 農業・林業

- 農家数は、郡内3町と県と比較すると、販売農家率が最も低く、大田市よりは高い。
- 水稲10aあたり収量は川本町よりは高いが、その他と比較すると低い。
- 林野率は比較団体中最も高い。

自治体	総農家数		耕地面積 (ha)	水稲		林野面積	
	(戸)	うち 販売農家 (戸)		収穫量 (t)	10aあたり 収量 (kg)	(ha)	林野率 (%)
美郷町	623	332	651	1,040	466	25,045	88.5
大田市	2,084	1,098	2,460	5,130	503	33,648	77.2
邑南町	1,711	1,175	1,920	5,370	516	36,240	86.4
川本町	284	166	346	634	453	8,987	84.4
島根県	20,714	19,173	36,600	91,700	524	525,049	78.3

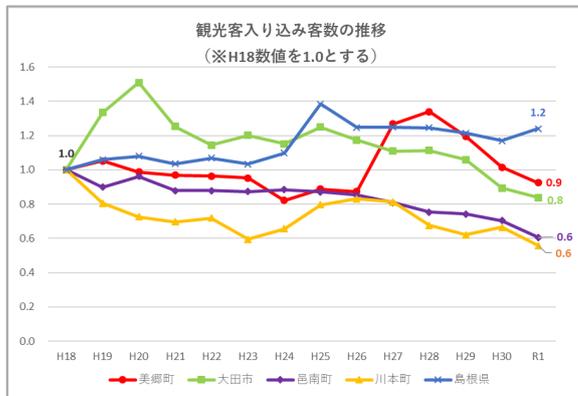
[出典] 農家総数：農林水産省「農林業センサス（2015）」  
 耕地面積、水稲：農林水産省「作物統計調査（2017）」  
 林野面積・林野率：中国四国農政局「島根農林水産統計年報」、国土交通省国土地理院「全国市町村別面積調」

## ⑥ 観光

- 観光客数は平成 26 年頃までは減少傾向にあったが、三江線廃線が発表された平成 26 年から入り込み客数は 10 万人を超え、平成 28 年をピークに再び減少傾向となっている。
- 宿泊客数は平成 24 年までは増加傾向にあったが、平成 25 年に減少した。その後再び増加と減少を繰り返している状況にある。

### ■入り込み客数

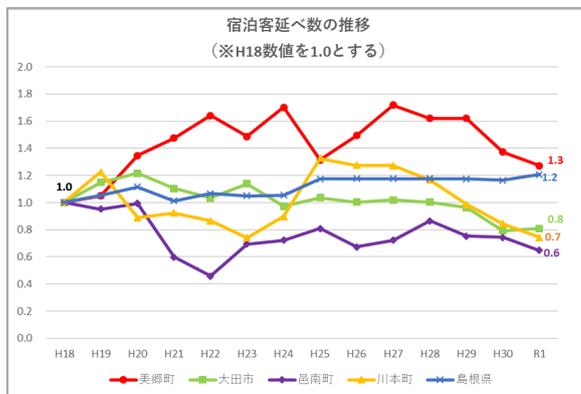
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
美郷町	97,425	96,348	83,062	89,727	88,320	128,083	135,364	120,810	102,697	93,465
大田市	1,425,421	1,497,064	1,434,135	1,556,339	1,462,309	1,381,353	1,387,435	1,319,568	1,113,452	1,044,080
邑南町	443,056	440,729	446,302	438,925	430,071	407,691	379,613	374,734	354,330	305,363
川本町	37,412	31,011	34,170	41,500	43,321	42,295	35,196	32,366	34,690	29,040
島根県	28,403,194	27,502,014	29,188,072	36,808,933	33,158,430	33,206,608	33,118,547	32,303,365	31,133,287	32,990,180



[出典] 島根県観光振興課「島根県観光動態調査」

### ■宿泊客延べ数

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
美郷町	13,726	12,440	14,222	10,993	12,480	14,366	13,549	13,552	11,472	10,639
大田市	163,875	180,565	153,952	164,157	159,015	161,487	159,031	152,595	125,671	128,238
邑南町	14,196	21,547	22,403	25,108	20,894	22,402	26,819	23,310	23,048	20,059
川本町	3,386	2,900	3,514	5,187	4,987	4,978	4,570	3,859	3,307	2,909
島根県	3,347,976	3,293,268	3,311,485	3,682,952	3,688,414	3,687,227	3,687,173	3,683,300	3,652,635	3,781,588

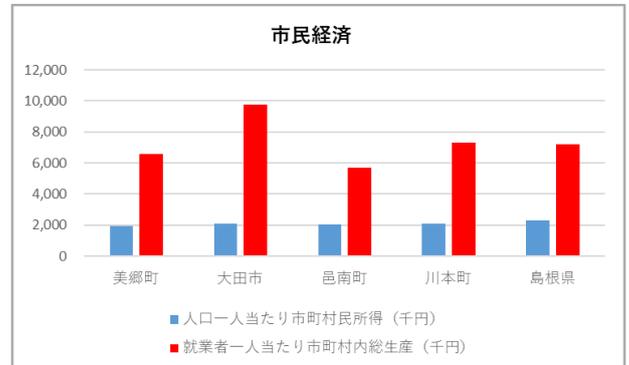


[出典] 島根県観光振興課「島根県観光動態調査」

## ⑦ 市民経済

○人口 1 人当たり市町村民所得は比較団体中最も低水準で、就業者一人当たり市町村内総生産は邑南町よりは高いが、その他と比較すると低い。

	人口一人当たり市町 村民所得（千円）	就業者一人当たり市町 村内総生産（千円）
美郷町	1,912	6,555
大田市	2,112	9,752
邑南町	2,013	5,697
川本町	2,111	7,312
島根県	2,311	7,205



※市町村民所得には企業所得等を含むため、これを市町村の人口で除した「1人当たり市町村民所得」は市町村民個人の給与や実収入の水準を表すものではない。

[出典] 島根県統計調査課「平成 29 年度市町村民経済計算」

[指標計算式] 人口 1 人当たり市町村民所得（千円）＝市町村民所得/総人口

就業者 1 人当たり市町村民総生産（千円）＝市町村内総生産/就業者数

## ⑧ 子育て

○人口 1 万人当たり小児科医師数は邑智郡 3 町の中では高い水準にあるが、大田市・県よりは下回る。美郷町に産婦人科医はいない。

○小中学校の教員 1 人当たりの児童生徒数は、小学校の教員数の割合は県を除いて比較団体中最も高いが、中学校の教員数の割合は最も低い。

	産婦人科 系医師数	人口1万 人当たり	小児科医 師数	人口1万人 あたり
美郷町	0	0.00	1	2.09
大田市	3	0.87	11	3.18
邑南町	1	0.91	1	0.91
川本町	0	0.00	0	0.00
島根県	65	0.94	174	2.52

[出典] 厚生労働省「平成 30 年医師・歯科医師・薬剤師統計」

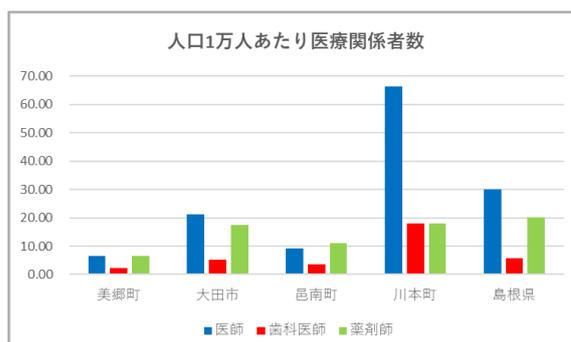
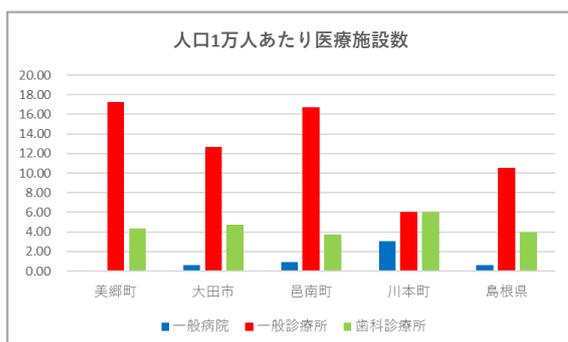
	小学校			中学校			小中学校 教員1人 当たり児 童生徒数
	児童数	教員数	教員1人 当たり児 童数	生徒数	教員数	教員1人 当たり生 徒数	
美郷町	243	29	8.38	111	25	4.44	6.56
大田市	1,602	192	8.34	840	104	8.08	8.25
邑南町	484	76	6.37	228	39	5.85	6.19
川本町	121	15	8.07	58	10	5.80	7.16
島根県	34,801	3,191	10.91	17,596	1,909	9.22	10.27

[出典] 島根県統計調査課「平成 30 年 島根県統計書」

## ⑨ 医療

○人口 1 万人当たり医療施設数は、他団体と比較して同水準か上回るが、美郷町に一般病院がないこともあり、医師数は比較団体の中で最も少ない。

	一般病院		一般診療所		歯科診療所		医師		歯科医師		薬剤師	
	(施設)	人口1万人当たり	(施設)	人口1万人当たり	(施設)	人口1万人当たり	(人)	人口1万人当たり	(人)	人口1万人当たり	(人)	人口1万人当たり
美郷町	0	0.00	8	17.29	2	4.32	3	6.48	1	2.16	3	6.48
大田市	2	0.59	43	12.65	16	4.71	72	21.18	18	5.29	59	17.35
邑南町	1	0.93	18	16.69	4	3.71	10	9.27	4	3.71	12	11.13
川本町	1	3.02	2	6.05	2	6.05	22	66.51	6	18.14	6	18.14
島根県	43	0.63	721	10.53	271	3.96	2,050	29.94	401	5.86	1,377	20.11



[出典] 医師数：厚生労働省「平成 30 年医師・歯科医師・薬剤師統計」

病院数：総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた 2020」

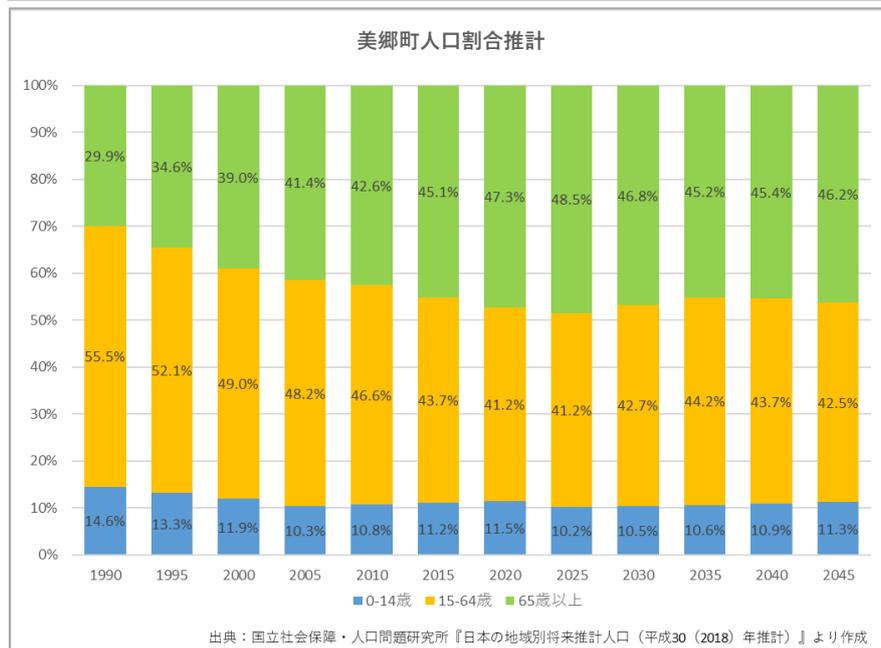
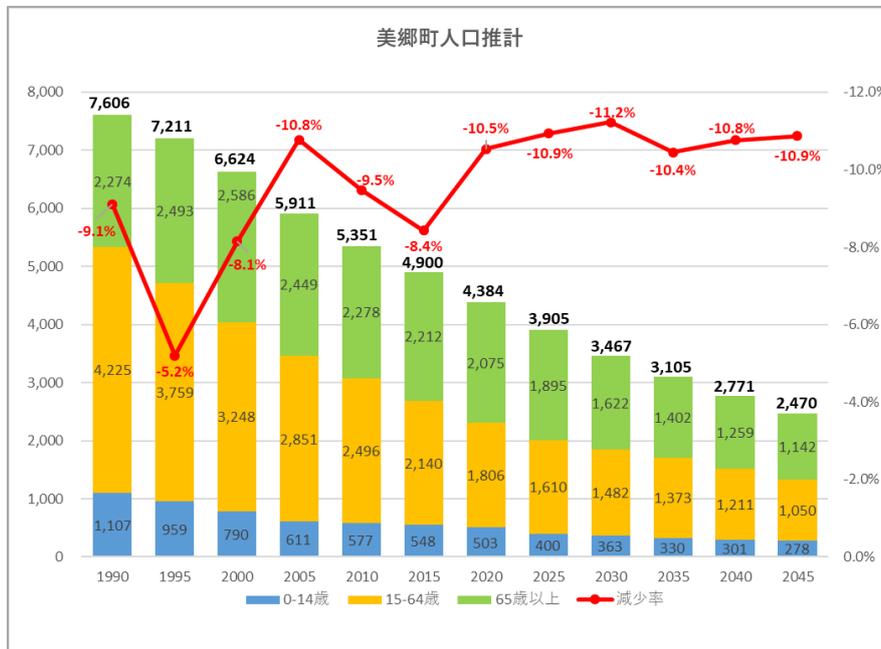
[指標計算式] 人口 1 万人当たり数 (人) = 数 (人) / (人口総数 / 10,000)

## 2. 美郷町の将来人口の見通し（人口ビジョン）

### (1) 将来の人口推計

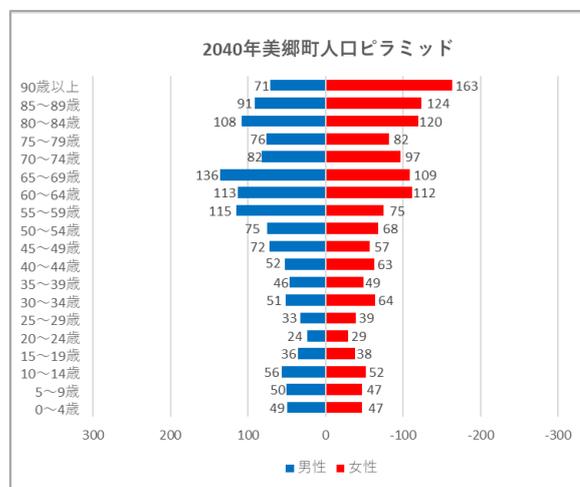
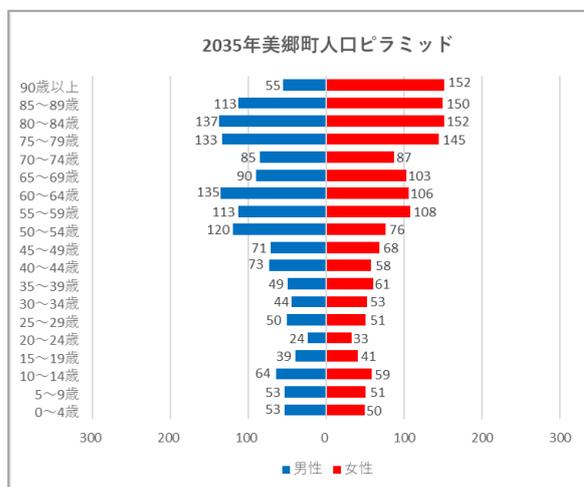
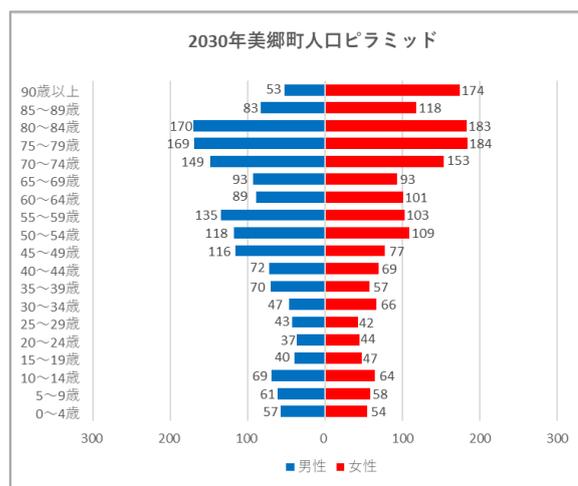
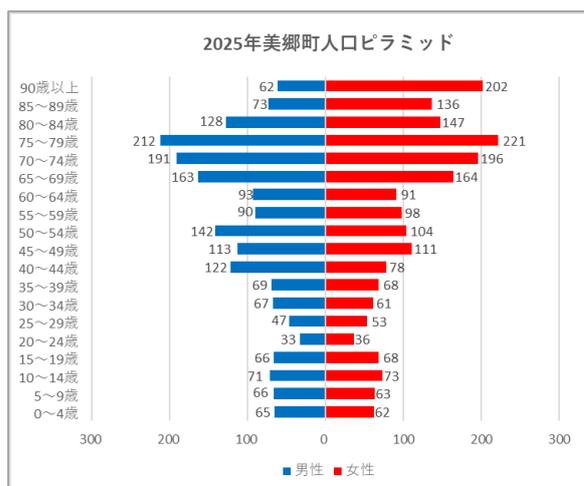
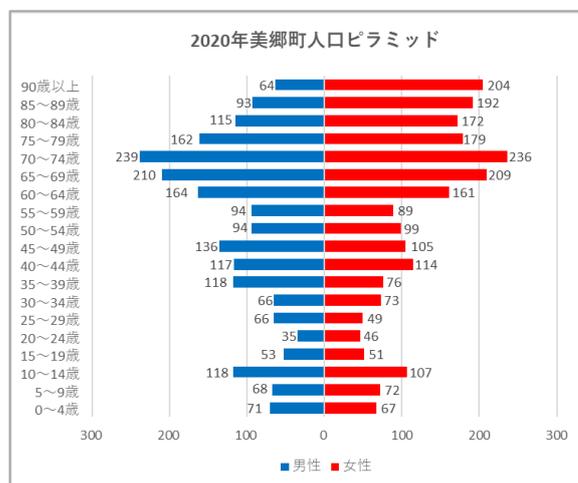
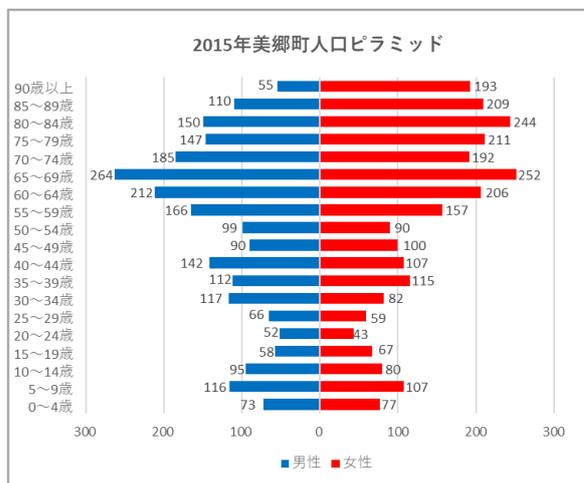
美郷町の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると今後も減り続け、2045年には2,470人になると試算されている。また、人口割合については、総人口に占める年少人口（0～14歳）の割合は、2025年に一度最小の10.2%となるが、それ以降は上昇していく見込みであり、生産年齢人口も2020年と2025年に最小の41.2%となる以降は徐々に上昇する見込みである。一方、高齢人口（65歳以上）は2025年にピークを迎え、その後は46%前後を推移する見込みである。

この見通しから、美郷町の少子高齢化のピークが2025年であると読み取れる。



## (2) 人口ピラミッドから見た推計

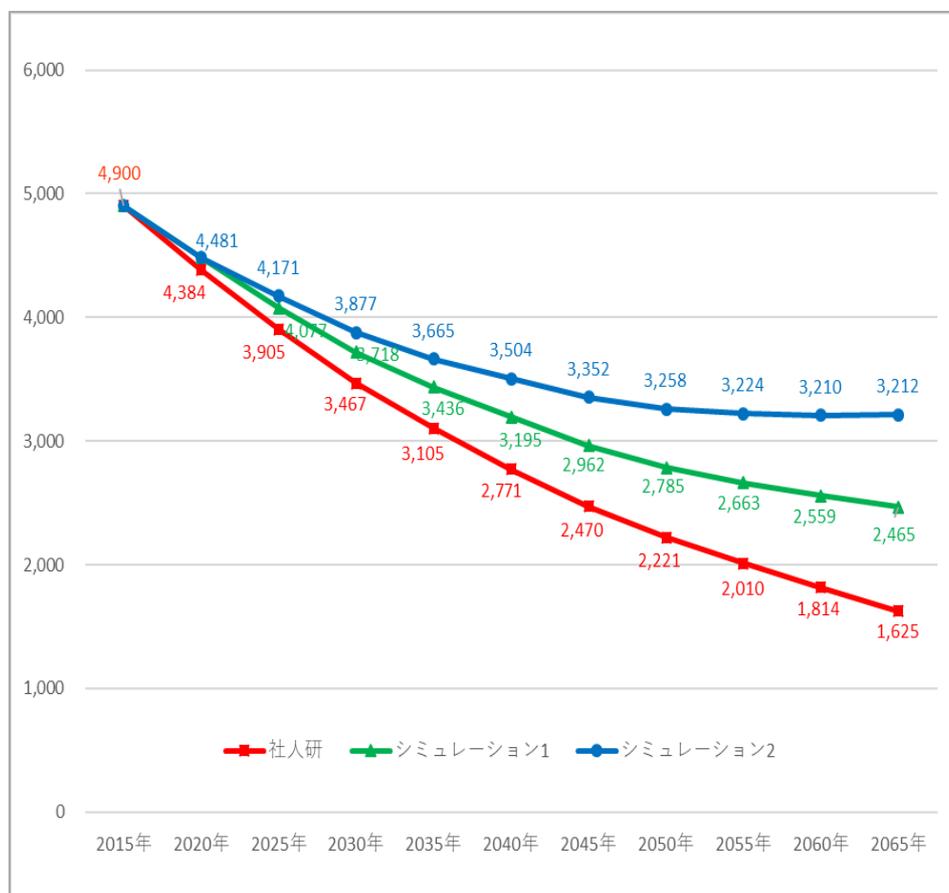
平成 27 年国勢調査時には高齢者層が多く、逆ピラミッド型をしているが、次第にピラミッドの形は細長い形に近づいていく見通しである。

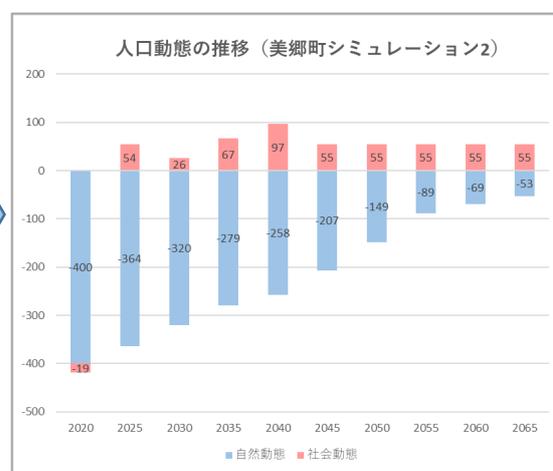
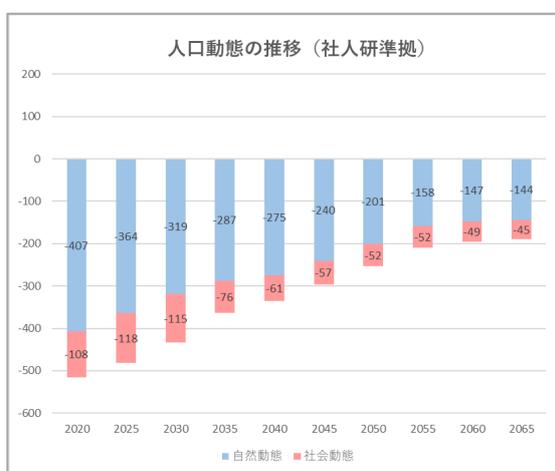
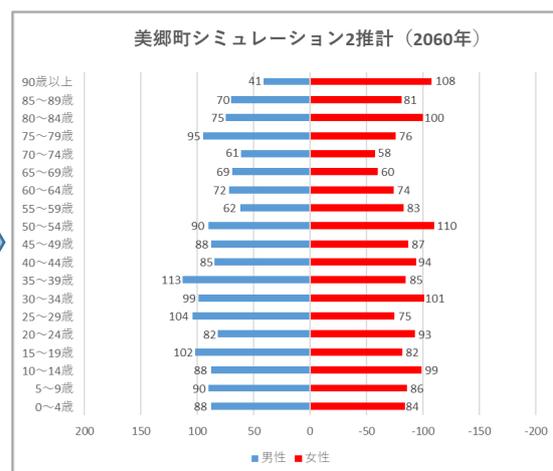
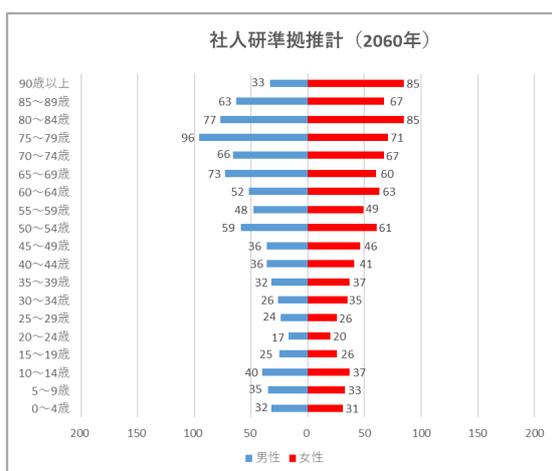


### (3) 美郷町の人口シミュレーション

国立社会保障・人口問題研究所の推計をベースに、出生率が向上した場合の人口推計は「シミュレーション1」のとおりで、その前提条件のもと、総合戦略のリーディング事業等による上乗せ効果を加味した場合の人口推計は「シミュレーション2」となる。

区分	自然動態 (合計特殊出生率)	社会動態 (純移動率)
社人研	2020年：1.92 2025年：1.88 2030年：1.85	2010年から2015年までの人口移動が、2040年から2045年まで継続すると仮定  ①社人研の人口移動率が2040年までに段階的に0になると仮定 ②毎年、子ども1人世帯3組が移動 ③リーディング事業等で 2020-2025年 45人 2025年以降5年ごとに10人が移住
シミュレーション1	2020年：1.93 2025年以降：1.90	
シミュレーション2		





美郷町ではシミュレーション2で推計した人口をもとに、2025年で4,000人、2060年で3,000人の人口キープを目標とする。

#### (4) 人口減少が進んだ場合の問題

- ① 集落機能が維持できない地域が多数発生、農地の荒廃や空き家の増加、無居住地域の発生などが予想される。
- ② 地域内消費が減少し、日常生活に必要な商店等の減少や公共交通などのサービス確保が困難になる。
- ③ 少子高齢化が進むと、地域産業や福祉サービスに必要な人材の確保、地域産業や地域経済の縮小、伝統や技術の継承など様々な問題が発生する。
- ④ 人口減少に伴い、行政コストを大幅に削減する必要があり、単独自治体として生き残ることが困難になることが懸念される。

### 3. 総合戦略の基本的な考え方

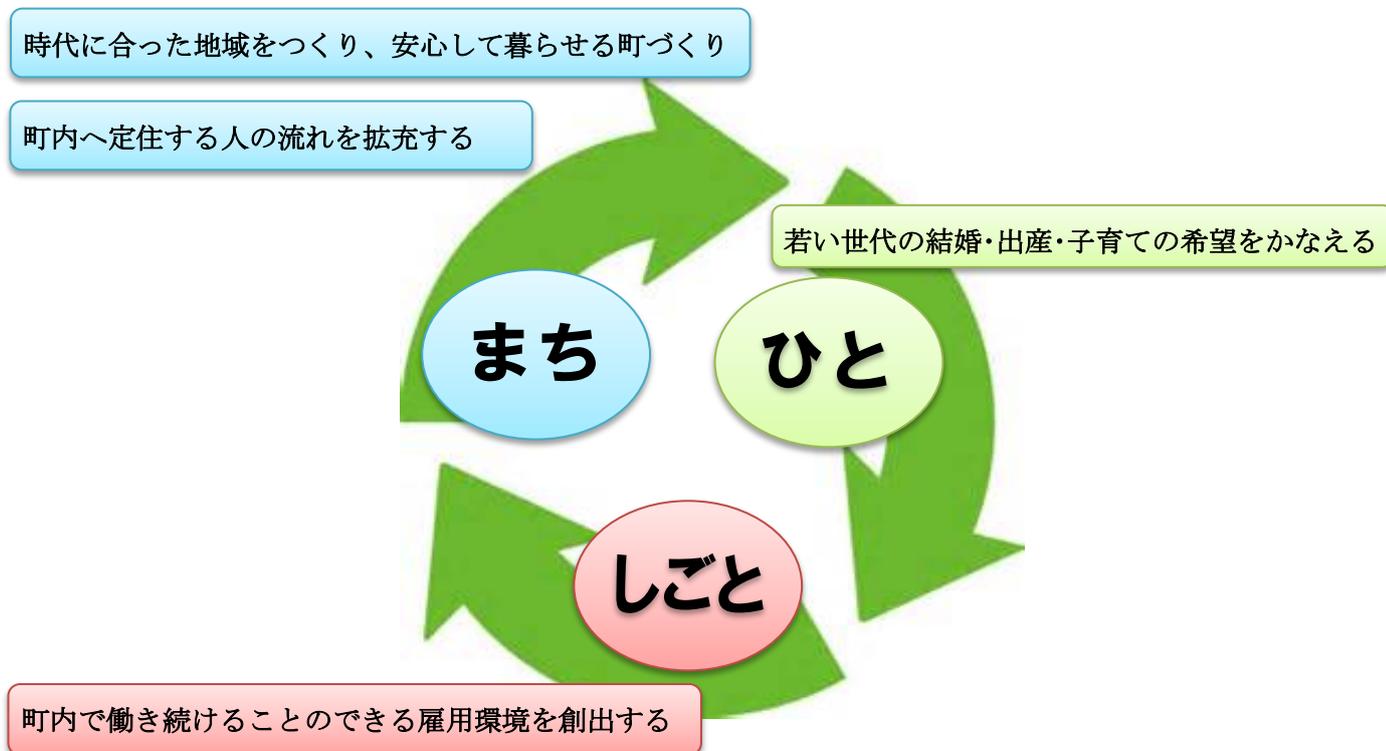
日本全体が人口減少時代へと移行する中、国立社会保障・人口問題研究所などの公表している将来人口推計をみても、美郷町の人口が減少し続けることは避けられません。

一方、人口構成をみても、少子化や高齢化が一層進むことが予測され、本町を担ってきた生産年齢人口に属する世代が減少し、地域の産業活力、社会活力の低下にも影響が及ぶものと考えられ、総合的で包括的な対策を講じる事が喫緊の課題となっています。

今後、本町において、出生率の高い水準を維持するとともに、子どもを産み育てる親世代の人口減少に歯止めをかけ、望ましい世代構成を実現させるため、長期的な取り組みを進める必要があります。

また、本町からの転出抑制を図り、定住してもらうため、美郷が好きで住み続けたいという意識の醸成のほか、雇用の場や住まいの確保、結婚に向けた出会いの場の提供、出産や子育てに対する支援など、個々の連携した取り組みを推進していきます。

こうした取り組みについては、今後も検証を実施する中で、問題点を洗い出し、人口問題の対策における効果の上がる事業として、縮小・継続・拡大・改善及び新規事業の実施など柔軟に対応していきます。



## 4. 戦略の基本目標と施策（令和3年度～7年度）

### 【基本目標1】

#### 活力ある産業の創出と雇用を促進する

美郷町では、少子化や定住に係る様々な施策に取り組んできましたが、雇用の場を確保することが求められています。また、地場産業を守るための事業承継を軸とした取り組みを進めるとともに、地域の資源を活かした新産業の創出も推進します。

##### <目標>

- ☆ 町外からの企業参入数 5事業者
- ☆ 観光動態調査の宿泊者数 13,000人（現状値 H29：6,722人）
- ☆ 温泉施設の入込客数 25,500人（現状値 H29：7,524人）
- ☆ 新規雇用就職者数（新規学卒者） 15人
- ☆ サテライトオフィス県外利用者割合 30%
- ☆ 三瓶在来そば栽培面積 25ha（現状値 R2：6.4ha）
- ☆ 薬用作物栽培面積 8.6ha（現状値 R2：3.2ha）

### 【基本目標2】

#### 町内へ定住する人の流れを拡充する

U・Iターン者が「美郷に来てよかった！」と実感できるような取り組みと地域活動等に継続的に参加し、美郷町への関わりをもつ関係人口及び活動人口の拡大を推進します。

##### <目標>

- ☆ U・Iターン施策による受入数 50人（現状値 R1：19人）
- ☆ みさと暮らし応援ネット閲覧数 240,000件（現状値 R2：90,000件）
- ☆ 美郷バレー構想による包括連携協定数 10件（現状値 R2：8件）
- ☆ バリ島マス村からの技能実習生の受入数 15人

### 【基本目標3】

#### 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

美郷町の合計特殊出生率は県内でも高い水準を維持しており、子育てしやすい環境が一定程度整っていますが、子育てに不安を感じる保護者も少なくありません。地域に魅力を感じ、更に結婚、子育てしやすい総合的な環境をつくります。

##### <目標>

- ☆ 出会いの場創出によるマッチング数 6組（現状値 R1：4組）
- ☆ 育児の相談相手がいる保護者の割合 100%（現状値 R1：92.3%）

## 【基本目標4】

### 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する

美郷町の人口減少は、少子高齢化による自然減少による影響が大きく、地域活動の継続や地域コミュニティの維持が困難になることが予想されます。持続可能な地域運営のため小さな拠点づくりを推進し、地域活動の課題解決に向けた取り組みを進めます。

#### <目標>

- ☆ 小さな拠点づくり計画・協議等実施地域数  
13 地域（全連合自治会・現状値 R1：7 地域）
- ☆ 地域での生活支援を実施している連合自治会数  
8 地域（連合自治会単位・現状値 R2：3 地域）
- ☆ 公民館の「地域課題解決学習」の実施回数 16 回（現状値 R1：10 回）
- ☆ 自主防災組織（連合自治会）での地区防災計画策定数  
13 地域（全連合自治会・現状値 R2：1 地域）
- ☆ 美郷町公共交通ビジョンの策定

## 【基本目標5】

### 先進技術を活かした新たな美郷を創造する

医療、交通、社会生活等未来技術の発展は目覚ましいものがあります。

高齢化や人の移動、物流の課題に直面する今日、持続可能なまちづくりを進めていくうえで、先進技術は必要不可欠になります。今後、予測される課題にも対応していくために、最新の技術を見極めながら利便性向上に資する取り組みを進めます。

#### <目標>

- ☆ ドローンによる物流ネットワークの構築 5 年後導入
- ☆ IP 告知端末等を使った遠隔診療システム  
5 年後システム構築・導入
- ☆ IP 告知端末等を使った買い物支援サービス導入  
5 年後システム構築・導入

## 基本目標 1 活力ある産業の創出と雇用を促進する

### (1) 新産業の創出と雇用の促進

#### 【現状と課題】

美郷町では産業雇用対策を積極的に支援し、地域産業に対して一定の成果はあったものの、事業主の高齢化が進み新たな産業の創出については厳しい状況にあります。しかしながら新型コロナウイルス感染症により、大都市の「過密」のデメリットが顕在化し、その対極にある「過疎」の地方に目が向けられています。これまで人口減少や過疎に苦しんできた典型的な中山間過疎地域である美郷町にとっては、大きなチャンスが到来したと考えられます。こうした中、物流や商圈など条件不利地である美郷町においては、リスクを恐れず新事業に挑戦する人・事業者にとって魅力を感じてもらえる仕組みの構築や支援が重要です。美郷町の強みを活かした起業支援や第二創業といわれる新事業の展開を支援するとともに、町内での雇用の場の確保、また外国人技能実習生の受け入れも含めた労働力の確保を進めていく必要があります。

#### 【取り組みの方向】

##### ① 起業の支援

美郷町の強みや新技術を活かしたテーマを設定したビジネスプランコンテストを開催し、起業後も伴走支援できる取り組みを展開します。

##### ② 新産業づくりの推進と進出企業支援

町内サテライトオフィスの利活用も含めた、町外からの企業進出を支援します。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
町外からの企業参入数	R3～R7 年度 5 事業者	-
サテライトオフィス県外利用者割合	R3～R7 年度 30%	-

## (2) 農林業の推進

### 【現状と課題】

高齢化や担い手不足による耕作放棄地の拡大、鳥獣被害による耕作意欲の減退が深刻なものになっています。畜産業においては、中核的農家の規模拡大により飼養頭数は増加しているものの、高齢化により飼養農家等が減少しています。林業は、木材価格の低迷や担い手不足が深刻化するとともに、山林の荒廃が甚大な自然災害を引き起こす要因として懸念されています。

### 【取り組みの方向】

#### ①生産体制の構築

集落営農組織の組織強化や広域連携の推進により持続可能な組織づくりを支援します。また、ファームサポート美郷の充実を図り集落営農組織のない地域の農地を保全します。

#### ②農地の有効利用

遊休農地対策や耕作放棄地対策として、三瓶在来そばや薬用作物栽培の取り組みを支援するとともに特産化を図ります。

#### ③農業従事者担い手の確保及び育成

・農業に従事しようとする者、または従事している青年等に対して、農業の担い手となる者の研修や仲間づくりを支援しながら、優れた農業従事者の確保及び育成に努めます。

・ミニトマトの栽培に取り組もうとする認定新規就農者に対して、リース方式によるパイプハウスの整備に対して支援を行います。

#### ④森林整備の促進

- ・森林環境譲与税を活用した私有林森林整備の促進を支援します。
- ・林業従事者の人材育成や担い手の確保に努めます。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
集落営農法人化数	R3～R7 年度 10 法人	R2 年度 5 法人
三瓶在来そば栽培面積	R3～R7 年度 25 ha	R2 年度 6.4 ha
薬用作物栽培面積	R3～R7 年度 8.6 ha	R2 年度 3.2 ha
新規就農者数	R3～R7 年度 18 経営体	R2 年度 8 経営体

### (3) 商工業の振興

#### 【現状と課題】

人口減少と高齢化、購買スタイルの多様化等を原因として、地元購買率の低下が進み、地域経済は縮小傾向にあります。特に飲食・宿泊業、小売業が影響を受け、住民生活の利便性も損なうといった負のスパイラルとなっています。地域内消費の拡大や新たな事業の取り組みが喫緊の課題です。

また事業主の高齢化が進む中で、特に小規模事業所の事業承継が課題となっています。

#### 【取り組みの方向】

##### ①商業基盤の整備

商工会と連携し、経営改善、事業の安定化に向けた支援を実施します。また、地域が必要とする業種の事業者誘致や空き店舗の活用、更には中心市街地等の活性化の取り組みにより、地域商業環境の改善を図ります。

##### ②町内消費の誘導

キャッシュレス決済の仕組みが急速に広まる今日、町民カード「みさと。Pay」の活用による町内消費の拡大推進や買い物支援事業に取り組み、利便性の高い商業環境の整備を推進します。

##### ③地場産業の事業承継と支援

商工会とともに事業承継の円滑化に向けた枠組みの構築を強化していきます。親族や親族外による事業承継だけでなく、M&A（※1）も含め検討していきます。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
みさと。Pay 利用金額	R3～R7 年度 300,000 千円	-
IP 告知端末等を活用した 買い物支援事業利用件数	R3～R7 年度 1,200 件	-

---

(※1) M&A (エムアンドエー) … 『Mergers (合併) and Acquisitions (買収)』の略。企業の合併買収のことで、2つ以上の会社の一つになったり (合併)、ある会社が他の会社を買ったりすること (買収) です。

#### (4) 観光の振興

##### 【現状と課題】

美郷町の主要施設における観光入込客数及び宿泊者数は、旧三江線の廃線に伴う観光特需が終息したことや一部の宿泊施設や飲食店の廃業も要因となり減少傾向にあります。

しかし、広域観光の推進や観光協会による着地型体験プログラムの実施等により、町内外の交流人口の拡大が期待されており、地域資源を活用した滞在型観光へのシフトが課題となっています。

##### 【取り組みの方向】

###### ①観光施設の魅力発信

地域内の主要施設における誘客を促進する事業を推進します。

###### ②観光資源の活用

美郷町を体験してもらうためのプログラムを充実させ、美郷町の人と資源の魅力を発信します。

###### ③広域観光の推進

周辺自治体と連携した広域観光連携や地域に根差したワイナリー・リゾート・タウン構想による滞在型の観光を推進します。

###### ④美肌県美肌町の推進

温泉や雲海等の様々な美肌コンテンツを活かした観光プログラムづくりを県や関係機関と連携して取り組みます。

###### ⑤石見神楽の魅力発信

美郷町を代表する伝統芸能である「石見神楽」の魅力を発信するための取り組みを地域団体と連携して推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
観光動態調査の宿泊者数	R3～R7 年度 13,000 人	H29 年度 6,722 人
温泉施設の入込客数	R3～R7 年度 25,500 人	H29 年度 7,524 人

## (5) 働きやすい就労環境の充実

### 【現状と課題】

生まれ育った場所または移住した場所に住みながら働くことが理想ですが、町内に雇用の場が限られており、やむを得ず町外へ通勤している町民も多くいます。

### 【取り組みの方向】

#### ①雇用促進のための支援

町民、特に若い世代を町内事業所で正規従業員として雇用している事業所に対して支援を行います。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
対象事業所における新規雇用就職者数 (新規学卒者)	R3～R7 年度 15 人	-

## (6) 産業振興に必要な社会資本整備

### 【現状と課題】

美郷町の令和2年度末に町道道路改良率は58.8%で、観光や農林業などの産業振興に必要な道路等の社会資本整備の推進が必要です。

### 【取り組みの方向】

#### ①道路網の構築

国道、県道の道路改良の促進を、国や県に働きかけます。

#### ②生活基盤の整備

物流の安定的な運用確保のため、町道等の安全安心な道路整備を推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
375号、川本波多線の改良 済延長	R3～R7年度 40.2km	R2年度 39.6km
町道改良率	R3～R7年度 60.1%	R2年度 58.8%

## 【基本目標2】 町内へ定住する人の流れを拡充する

### (1) 美郷町への移住及び定住の促進

#### 【現状と課題】

美郷町のような過疎地域は人口減少が進む一方であり、人口推移を辿ると2020年4,384人、以降5年ごとの推移は、2025年3,905人、2030年3,467人と想定され、人口減少率が最も高いと想定されているのは美郷町という厳しい統計があります。

このことを踏まえて、2008年より若者定住住宅の整備を行い、U・Iターン及び町内移動者を含め、子どものいる若者世帯の増加に繋がりました。その他、子育て環境づくりや様々な定住施策に関する取り組みも行ってきました。しかし、子どものいる若者世帯に特化し強化したこともあり、単身者や夫婦のみの世帯の移住及び定住に課題があったことも否めません。

また、新型コロナウイルス感染症は、結果として働き方も含めて地方への移住等の関心を高めることに繋がりました。この指向の高まりに対応する取り組みも必要になってきました。

#### 【取り組みの方向】

##### ①住宅の整備

若者定住を促進する住宅整備や空き家対策など、住民にとって暮らしやすい地域生活環境基盤の向上を図ります。

##### ②移住及び定住希望者向けの情報発信の充実

美郷町の魅力発信や移住・定住に関する情報をホームページ、SNS（※2）等を活用して積極的かつ継続的な情報発信を図ります。

##### ③空き家バンクへの住宅情報の提供体制整備

移住を考えている人の後押しをするため、空き家の紹介ができるように空き家バンクへの登録充実を図ります。また、空き家バンクによる住宅情報の提供を積極的に行っていきます。

##### ④移住体験による移住促進

移住を考えている人の定住を促進するため、移住体験住宅の活用を推進します。

##### ⑤定住新築住宅に対する補助

定住して持ち家を持ちたい若年層にとって、住宅の新築や増築は経済的なハードルが高く、建築後の支援も必要であるため、対象となる住宅の固定資産税に相当する額を補助します。

##### ⑥定住者用住宅改修支援事業

町内に住所を有する40歳以下の方、U・Iターン者の住宅にかかる改修費用の助成を行うことで、定住促進を図ります。

##### ⑦民間活力による住居確保対策

周辺市町への通勤立地及び若者等の取り込みを考えた住居確保を、民間活力を導入した賃貸住宅建設支援補助事業を推進し、若者の定住促進を図ります。

##### ⑧住実暮らし新築等住宅支援事業

若者やU・Iターン者が美郷に住みたい・住み続けたいという希望を叶えるため

の新築住宅の補助を行います。新築住宅建設に付随して空き家等の解体、土地購入をする際の補助を行い、動きのなかった家や土地が再び活用できるよう進めていきます。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
U・Iターン施策による受入数	R3～R7年度 50人	R1年度 19人
空き家バンク登録件数	R3～R7年度 50件	R1年度 11件
移住体験住宅の利用世帯数	R3～R7年度 20世帯	R1年度 4世帯
住宅の建設・建替戸数	R3～R7年度 15戸	R2年度 1戸

---

(※2) SNS…ソーシャル・ネットワーク・サービスの略。インターネットを通じて、多くの人と情報交換ができるサービス。代表的なものにFacebookやTwitterがあります。

## (2) 美郷町の魅力を発信する

### 【現状と課題】

魅力的な地域資源や定住施策、美郷バレー構想など町の強みや注力事業の発信を行っているが、多様な手法を活用し今後も効果的に情報発信していくことが必要です。

### 【取り組みの方向】

#### ①公式ホームページ等の充実の継続

公式ホームページの訪問者にとって使いやすく、訪れやすいつくりを継続し、またホームページ内におけるバリ島マス村の特設サイトや美郷バレー構想の特設サイト、ミニトマト新規就農特設サイトの町の強みや注力事業の発信を行います。

#### ②SNSを活かした多様な手法による情報発信力の強化

美郷町の魅力や「みさと暮らし応援ネット」等の移住・定住に関する情報をホームページのみならず、Facebook や Twitter、LINE、YouTube を活用して積極的に発信します。

#### ③美郷町のファンの取り込み

「みさとと。」のホームページを見て、まずは町に関心を持ち、美郷町を訪れて「みさとと。」の風景や物語を感じてもらえるきっかけとして、美郷町のファンになってもらう取り組みを進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
公式ホームページ閲覧数	R3～R7 年度 15,000PV/月	R2 年度 10,000PV/月
みさと暮らし応援ネット閲覧数	R3～R7 年度 240,000 件	R2 年度 90,000 件

### (3) ふるさと教育の推進

#### 【現状と課題】

美郷町の豊かな自然や人、地域に囲まれ、生まれ育ったふるさとに残り大切にしたいという思いがあっても、地域の将来と向き合う機会がないまま、子どもたちは大きくなり、結果美郷町を離れ都市部に生活の場を求めています。

子どもの頃から、ふるさとに愛着を持ち、ふるさとのために貢献しようとする人を育てていく必要があります。

#### 【取り組みの方向】

##### ①美郷町への愛着と理解の醸成を深める取り組み

美郷町の豊かな自然や地域の人材等の恵まれた教育資源に積極的に接する機会を通じて、ふるさとへの理解や関心を高め、地域を支える次世代の人材を育成します。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
将来美郷町に住みたい（帰ってきたい）と答える生徒の割合（中学校3年生）	R3～R7年度 80.0%	-

#### (4) 関係人口の増加と活動人口の拡大

##### 【現状と課題】

これまでも、美郷町出身者やふるさと納税者、観光客等の個人だけでなく、サテライトオフィスの整備や研究機関連携等、関係人口の増加に繋がる取り組みを進めてきました。

更に地域活動の支援で関わりを持つ活動人口（※3）の取り組みを進め、将来的な人口社会増の確保を図ります。

##### 【取り組みの方向】

###### ①ふるさと納税寄附件数の増加

美郷の魅力ある返礼品等を増やし、寄附件数の増加を目指します。

###### ②美郷バレーによる関係人口（活動人口）の拡大

山くじらブランド等のノウハウを蓄積しながら、大学や研究機関、企業等の包括連携協定や、研究実証フィールドとしての環境づくりを行います。

###### ③インドネシアバリ島マス村からの技能実習生の受け入れ

インドネシアバリ島マス村からの技能実習生を町内事業所等で受け入れ、農業、建設業、福祉分野等の人手不足解消を図ります。

###### ④インドネシアバリ島マス村との民間交流の促進

バリ島関連のSNS（「ぱりとと。」）による情報発信を行うとともに、美郷町国際友好協会をはじめとした民間団体等に対して活動を支援します。

###### ⑤インドネシアバリ島との文化交流の促進

インドネシアバリ島の固有の文化に触れる機会として、ガムラン楽器等の演奏会を開催して、人の交流とともに文化の交流も促進します。

重要業績評価指標（KPI）	目標値	現状値
ふるさと納税寄附件数	R3～R7年度 10,000件	R1年度 497件
美郷バレー構想による包括連携協定数	R3～R7年度 10件	R2年度 8件
バリ島マス村からの技能実習生の受入数	R3～R7年度 15人	R2年度 0人
バリ島関連のSNS（「ぱりとと。」）のフォロワー数	R3～R7年度 200件	R2年度 75件
バリ文化振興を目的とした演奏会等の開催	R3～R7年度 2回	-

-----  
（※3）活動人口…地域に対する誇りや自負心を持ち、積極的に地域づくりのために活動する人たちを指します。

### 【基本目標3】若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

#### (1) 結婚支援の充実

##### 【現状と課題】

未婚、晩婚化が進む背景に、就職や進学を理由とした町外への転出に歯止めにかかわらず、若者の減少や地域・親族間や職場での付き合いの希薄化、出会いの場の減少などにより、行政やコミュニティ、企業など社会全体での支援の強化が求められます。

##### 【取り組みの方向】

###### ①出会いの場創出のためのイベントの開催

「結婚支援相談員」を配置して、事業の企画やSNSでの情報発信、オンライン婚活イベントなど取り組みを強化します。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
出会いの場創出によるマッチング数	R3～R7年度 6組	R1年度 4組

## (2) 妊娠・出産・育児までの総合的な支援体制の整備

### 【現状と課題】

美郷町においても少子化や核家族化により、地域で母親や保護者が子育てについて気軽に相談できる機会が少なくなっています。また、医療機関も遠いために受診や通院も妊産婦の負担が大きい環境にあります。妊娠・出産・子育てについての負担や不安を解消し、若い世代が希望どおりに安心して、子どもを産み、育てることができる環境整備を更に進めていく必要があります。

### 【取り組みの方向】

#### ① ICT（情報通信技術）を活用した子育て相談環境の整備

緊急時自宅でも相談できる小児科・産婦人科オンライン相談事業の活用により、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援を行います。

#### ②産後ケア事業の実施

産後に家庭等の支援が得られない母親と乳児に在宅助産師や保健師が訪問し、授乳指導、乳房ケア、育児相談等を提供します。

#### ③子育てサポーター制度の整備

出産後、家事や育児などの支援が必要な家庭に子育ての経験豊富な子育てサポーターを派遣し、子育て中の家庭を支援します。

#### ④子どもの健やかな成長と自立に向けた支援

子どもの発達で気になることがあった場合など、発達相談体制を充実させ自立に向けた支援を実施します。

重要業績評価指標（KPI）	目標値	現状値
育児の相談相手がいる保護者の割合	R3～R7年度 100%	R1年度 92.3%

### (3) 子育てしやすい学校教育と社会教育環境の充実

#### 【現状と課題】

経済的に不安定な家庭や発達に課題を抱えた子どもが増加するなど、子育て世帯に経済的・精神的負担が生じています。

美郷町の将来を担う子どもたちの健やかで豊かな心身を育てていくために、これまで行ってきた給食費の軽減や公営塾の開設等、教育環境充実のための施策を継続します。

#### 【取り組みの方向】

##### ①学校給食費の軽減

食材費の約30%補助を継続します。

##### ②通学バス等の補助

通学バス等にかかる費用の全額補助を継続します。

##### ③子どもの居場所づくり

放課後子ども教室、放課後児童クラブを連携して無料で実施します。また、子育て支援のスタッフとして資質の向上を図ります。

##### ④公営塾の開設

町内中学生を対象として、無料で実施している公営塾を継続します。

##### ⑤特別支援教育サポートの継続

発達障害等で特別な支援が必要な子どものきめ細かな学習指導体制を充実します。

##### ⑥子ども読書活動推進のための学校司書配置

町内4校に学校司書を配置し、学校での読書活動を推進します。

##### ⑦本を通じた親子活動の推進

みさと本の森を、読書のみならず親子活動の拠点として利活用を推進します。

##### ⑧スポーツ少年団の育成

スポーツ少年団の活動に対して、公共施設利用料の免除や活動補助金の交付、上位大会出場者に対して参加経費の補助を継続します。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
特別支援教育に関する研修会の実施	R3～R7 年度 1回	R1 年度 0回
親子読書事業の実施回数	R3～R7 年度 3回	R1 年度 0回

## 【基本目標4】時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

(1) 地域コミュニティの単位・実情に応じた住民等の活動体制の構築

### 【現状と課題】

地域コミュニティの単位として、13連合自治会と105単位自治会があります。地域との関わりや事業推進、意見交換等において、連合自治会を重視し、長期総合計画では連合自治会ごとの地域コミュニティ計画を立てています。

小さな拠点づくりの取り組みについて、人・情報の集まり、活動の量、組織力等に違いがあり、持続可能な地域づくりのためには13連合自治会全ての推進が不可欠です。

### 【取り組みの方向】

#### ①「小さな拠点づくり」の推進

地域コミュニティの中核単位である全連合自治会で策定した地域コミュニティ計画（後期事業計画）の地域生活課題解決に向けた取り組みを支援し、小さな拠点づくりを推進して、地域を主体とした将来・課題解決のための取り組みを進めます。

#### ②住み続けるための仕組みづくり

持続可能な地域づくりのために、どの地域でも同じようなサービスが受けられるよう、買い物や交通等住民生活に必要な機能を確保するため、小さな拠点づくりを推進します。

#### ③高齢になっても地域で安心して暮らせる地域づくり

住民、行政、関係機関が連携して、地域ぐるみで高齢者の生活を支える体制の構築を目指します。

#### ④公民館の地域課題解決学習の実施

地域住民が自主的・主体的に学ぶ学習環境を整備し、地域の課題解決に向けた学習や地域活動を通じて、自ら地域を創っていくという自律的・主体的な意識を高め、地域を担う人づくりを推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
小さな拠点づくり計画・協議等実施地域数	R3～R7年度 13地域（連合自治会）	R1年度 7地域（連合自治会）
地域での生活支援を実施している連合自治会数	R3～R7年度 8自治会	R2年度 3自治会
公民館の「地域課題解決学習」の実施回数	R3～R7年度 16回	R1年度 10回
自主防災組織（連合自治会）での地区防災計画策定数	R3～R7年度 13地域（連合自治会）	R2年度 1地域（連合自治会）

## (2) 地域生活交通の確保

### 【現状と課題】

多くの住民は、移動手段として自家用車に強く依存していることもあり、公共交通利用者は減少し続けています。このことは減便や路線廃止という利便性の低下に繋がります。

旧三江線が担っていた交通の代替路線確保と、公共交通空白地域の解消や免許返納等により車の運転ができない高齢者、あるいは通学等の日常生活を支えるため、地域生活交通の確保が必要です。

### 【取り組みの方向】

#### ①美郷町公共交通ビジョンの策定

5か年計画のビジョンを策定し、公共交通の様々な課題解決に対する取り組みを具体化します。

#### ②乗合タクシー・タクシー利用助成の継続

デマンド型乗合タクシーの運行、タクシー利用助成事業の継続を行い、公共交通不便地域の解消を図ります。

#### ③公共交通運賃助成事業の継続

公共交通としての利用を促進するため、割引券の交付を継続します。

#### ④高齢者運転免許自主返納支援事業の継続

高齢者が運転免許を自主的に返納しやすい環境をつくり、返納後の代替交通への移行を支援するため、バスやタクシーの利用券を交付します。

#### ⑤先進技術を使った公共交通の検討

地域が抱える課題解決の手法として、自動運転技術による公共交通網の検討を行います。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
美郷町公共交通ビジョンの策定	R3～R7 年度 策定	-
自動運転による公共交通網の検討・導入	R3～R7 年度 導入	-

## 【基本目標5】 先進技術を活かした新たな美郷を創造する

### (1) 空の駅構想の推進

#### 【現状と課題】

通信環境の整備や、新型コロナウイルス感染拡大防止のため外出自粛をする方が増えたことにより、インターネットやスマートフォン等で買い物をする機会が多くなりました。その影響で物流需要は増加していますが、反面、物流業界は人手不足に悩まされています。深刻化すると、配送地域の縮小が予想され、採算性の低い中山間地域への配送が削減の対象ともなりかねません。中山間地域が抱える現状に対応した方策を検討していく必要があります。

#### 【取り組みの方向】

##### ①空の駅構想の推進

ドローンによる物流網の検討を行い、実用化に向けて実証実験等の取り組みを進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
ドローンによる物流ネットワークの導入	R3～R7 年度 導入	R2 年度 実用化調査

## (2) 行政のデジタル化の推進

### 【現状と課題】

近年、5GやAI、IoTといった先進技術の発展は目覚ましく、国においてデジタル庁創設をはじめ行政のデジタル化の取り組みが急ピッチで進められています。美郷町においても、現在抱えている課題や今後予測される課題に対応していくために、先進技術を取り入れながら、買い物支援や遠隔診療など利便性向上に資する取り組みを進めていく必要があります。

### 【取り組みの方向】

#### ① IP告知端末等を使った各種サービスの仕組みの構築

遠隔診療や買い物支援といった自宅に居ながら受けられるサービスの仕組みを構築し、安心して住み続けることができるまちづくりを目指します。

#### ②未来技術活用の推進に向けた取り組み

役場内に「情報・未来技術戦略課」の新設を行い、より専門化を図り、加速するICT・未来技術を活用した課題解決に取り組みます。

重要業績評価指標 (KPI)	目標値	現状値
IP告知端末等を使った遠隔診療システムの検討	R3～R7年度 導入	-
IP告知端末等を使った買い物支援サービス導入の検討	R3～R7年度 導入	-